

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成27年 4月23日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 理学研究科

職名・学年 博士後期課程3年

氏 名 嵩 由 芙 子

助成の種類	平成27年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成		
研究集会名	欧州地球科学会議 European Geosciences Union General Assembly 2015		
発表題目	Copernican tectonic activities in the northwestern Imbrium region of the Moon		
開催場所	オーストリア・ウィーン・Austria Center Vienna (ACV)		
渡航期間	平成 27年 4 月 10日 ~ 平成 27年 4 月 21日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円	
	使用した助成金額	350,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	渡航費・交通費	170,000 円
		学会参加費・登録料	30,000 円
		滞在費の一部	150,000 円
当財団の助成について	学会での発表、参加にかかる費用や現地までの交通費について助成を頂き、大変ありがとうございました。他国の研究者との意見交換等々、大変有意義な毎日をごさせていただきました。 渡航前に助成金を振り込んでいただけると立て替える必要が無く、学生の身としては非常に助かりました。		

成果の概要／嵩 由美子

今回参加した European Geosciences Union (EGU) General Assembly 2015 は、2015年4月12日から4月17日にオーストリア・ウィーンの Austria Center Vienna にて開催されました。この学会は、世界各国から地球科学分野の研究者たちが集まり、5日間にわたって開催される大規模な学会です。地球科学という広い分野の研究者達が集まるため、専門分野の人だけでなく、他分野の研究者との意見交換・交流することができます。今年は、108か国から11,837名の研究者が参加していました。発表形式は、オーラルセッション、ポスターセッションおよび PICO (Presentating Interactive Content) セッションという3形式で行われました。

学会に参加するため、4月10日に関西国際空港を発ち、4月21日朝に帰国という日程で渡航しました。ウィーン滞在中には、日中興味の赴くままに様々な分野のオーラルセッションを聞き歩き、夕方はポスターセッションで発表を聞きつつ他の研究者達と交流を行い、夜は街へ繰り出して音楽の都ウィーンを堪能させて頂きました。

私は、Planetary and Solar System Sciences というセッションにて、Copernican tectonic activities in the northwestern Imbrium region of the Moon という題目で、ポスター発表を行いました。月面に分布する山脈や谷といったテクトニックな構造は表層の水平短縮・伸長の結果形成されたと考えられています。従来ではその成因は、火成活動に伴い噴出した多量の玄武岩溶岩の荷重による変形であると考えられてきましたが、近年では月-地球系の軌道進化に伴う変形や月の全球冷却に伴う収縮も成因の一つとして指摘されています。従って月の構造発達史を解明することは、月の火成活動史の解明に役立つだけでなく、さらに月の熱史や軌道進化史解明の手掛かりとなり、重要であるといえます。しかし、あまり解明されていません。そこで、月全球の構造発達史を明らかにすることを大目標とし、今回の発表では、月の雨の海地域の構造発達史について、特に非常に若い構造形成の痕跡の発見に焦点をあてて発表を行いました。コアタイム中は自分のポスターにつきっきりになると思い、コアタイムの一時間ほど前から同セッションのポスターを見て回り、同分野で発表している研究者と交流を行いました。コアタイムと違い人が少ない分じっくり話をする事ができ、分野の近い者同士話も弾み、理解が深まりました。コアタイムの時間になると、実に多くの方が聞きに来て下さりました。例えば、他惑星でよく似た研究をしている研究者や、惑星磁場を研究している方、また工学分野の方など様々な方と知り合うことができました。そういった方々との意見交換では、今後研究を発展させていく上でのヒントを数多く得ることができ、非常に有意義なものでした。また Smart-1 のプロジェクト・マネージャーであり、今回コンビーナを務めていた Dr. Bernard Foing 氏には以前お会いしたことがあったのですが、私のことを覚えて下さっていて嬉しかったです。学会では、発表ももちろん大事だと思っていますが、人脈を築くことも一つの目的だと思っていたので、その意味でも非常に実りの多い学会発表となりました。結局、コアタイムが始まってから終了時刻まで2時間弱の間、客足が途絶えることはなく、議論、意見交換を活発に行うことができ、大変有意義な時間となりました。惜しむらくは、一人と話をしている時に、他の誰かも会話に加わり、気づくと元々話をしていた方とは中途半端なまま別れるということがあったことです。今回は、そのあたりにも気を配り、発表技術の向上に努めていき

たいと思います。

国際学会への参加は、海外の研究者の方々と発表内容について議論し、意見を頂くだけでなく、新しい人脈を築く、非常にいい機会となりました。貴財団の援助がなければ、このような機会を得ることはできませんでした。貴重な海外での発表の機会を与えて頂き、貴財団に厚く御礼申し上げます。